

羽原記を之カ十五

在り退治之事

去程よりたゆまざる四月半ばかりおぼろしく此を接する
恨むる市の國人氏子はいつか徳一平月として別当明
鏡を造却し刻く女梵寺の寂を切破り狩りの信を拝倒
せしうば今津方の仏王甘糖備前守次第種々方便とて和
漢しけりとも終國主の下知し從うずた向中國ハ我他彼氏
をきて明をすれはれと事せしうばおを侍り寂走寺院